

バレーボール専門部 普及

埼玉県立浦和東高等学校 堀切宏明

1 現状

①登録チーム数

日本バレーボール協会 2009年度（埼玉県バレーボール協会 2015年度）

- ・大学・・・男子 403（12） 女子 411（9）
- ・高校・・・男子 2,873（129） 女子 3,961（163）
- ・中学校・・・男子 2,681（116） 女子 6,752（384）
- ・小学校・・・男子 1,167（36） 女子 5,396（117）

②登録選手数

日本バレーボール協会 2009年度（埼玉県バレーボール協会 2015年度）

- ・大学・・・男子 6,477 女子 1,271（男女 361）
- ・高校・・・男子 39,591 女子 62,207（男女 4,490）
- ・中学校・・・男子 34,268 女子 94,275（男女 11,153）
- ・小学校・・・男子 13,908 女子 79,407（男女 2,815）

③埼玉県高体連登録選手数の推移

年度	男子	女子
	登録選手数（増減）	登録選手数（増減）
2012	1,430	2,285
2013	1,540（+110）	2,245（-40）
2014	1,711（+171）	2,374（+129）
2015	1,945（+234）	2,524（+150）
2016	1,990（+45）	2,520（-4）

④考察

中学校から高校へ進学すると、登録チーム数・登録選手数ともに男子は増加しているが、女子は減少している。特に埼玉県の女子は顕著である。その理由は、中学から高校へとカテゴリーが上がることでより専門性が求められるからであると考えられる。普及という観点から考えると早急に考えなければならない課題である。

また、埼玉県高体連登録選手数の推移を見てみると、男女ともに増加していることがわかる。特に男子の増加は顕著である。年度別に見ると、2015年度は男女ともに増加が大きい。これは、アニメ「ハイキュー」や全日本女子がロンドンオリンピックで活躍したことなどから増加したのだと考えられる。男子は、高校からバレーを始めるという選手が以前はあまり見られなかったが、最近をよく見られる。

2 活動内容

①指導者育成

○指導者講習会

- ・県全体で年度当初に審判講習会を実施し、ルールの精通をおこなう。
- ・夏期休暇中に関東長身者合宿をおこない、指導者の講習会をおこなう。参加した指導者には、後日、伝達・発表をしてもらう。
- ・各地区で夏期休暇中に指導者講習会をおこなう。西部地区などは、外部から講師を招きおこなっている。南部でも接骨院の先生にお願いして講習会をおこなう。
- ・資格受講の情報提供を積極的におこない、指導者の指導力向上を目指す。

○中体連との連携による強化・普及

- ・中体連と連携を取り、JOC埼玉県選抜選手が高校に行き、練習会をおこなう。中体連の先生とも積極的な交流を通して、指導力を磨き、選手の強化をおこなう。
- ・中体連と連携を取り、ジュニアアスリートアカデミーの取り組みで埼玉県選抜選手が高校に行き、練習会をおこなう。今年度から、埼玉県全体から、北部・西部で1チーム、南部・東部で1チーム選抜し、その地区の高校を中心として中学生の選手強化をおこなう。中学生の負担軽減をねらいとするが、高校へと進学するのにもより地元で機会を増やすという、普及の面も考えられている。

②競技人口の増加

○小・中・高の連携

- ・バレーボールリーダー講習会と称して、小学生を対象とした講習会を中・高の指導者が講習会をおこなう。小学生から中学生に上がると、ローテーションという大幅なルール変更があるが、それを主に指導する。
- ・ヤングバレーボール大会の運営・協力を高体連として行っている。ヤングバレーボール大会は、特に中学校では盛んであり、通う中学校以外でも練習する機会があることで強化につながっている。また、通う中学校では、人数が足りなく、試合に出場できなかったり、専門の指導できる顧問がいなかったりした場合、ヤングバレーに所属することで練習する機会があり、普及につながっている。

○上尾メディックス、アザレア、総合型地域スポーツクラブによるバレー教室の実施

3 今後の課題

数は力であり、普及なくして強化はないと考えている。バレーボール本来の面白さを理解し、生徒に伝えるのは指導者の役割である。熱意のある指導者をいかに増やしていくか、バレーボールを生涯続けたい、バレーボールを楽しみ、と思わせる指導がいかにできるかが、今後の課題になると考える。そのためにも、高体連と、バレーボール協会、また、小・中・高とが連携を深めて、指導者育成並びに普及に努力し、強化につなげていきたいと考えている。